

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	<b>提案機関名</b>	湘南地域農業改良普及センター		
49				
※記入不要				
<b>要望問題</b> トマト土壌病害虫対策における熱水土壌方法の改善				
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 トマトの土壌病害で、萎ちょう病、根腐萎凋病、青枯病、などの被害が一部にあり、被害が大きい場合は、クロロピクリン剤による土壌消毒をせざるを得ない。しかし、近年、温室と隣接住宅地が接近しており、クロロピクリン剤の刺激臭に対する苦情が聞かれる。今後、ほ場と住宅地の接近が進むことを考えると、農薬使用による刺激臭の問題は重要である。 熱水土壌消毒は農薬を使用しないため、対策の一つとして考えられる。熱水土壌消毒は、減農薬栽培技術として生産現場に普及が進んでいるが、土壌深層部の消毒が不十分であったり、対象病害虫によっては防除効果が低いことが言われている。 防除効果を向上させる消毒方法の普及が望まれる。  対象：藤沢市、寒川町のトマト生産者10戸				
<b>解決希望年限</b>	①1年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内	③4～5年以内	④5～10年以内
<b>研究対応区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他			
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業総合研究所    ②根府川試験場    ③三浦試験場    ④津久井試験場 ) <input checked="" type="checkbox"/> ⑤畜産研究所    ⑥水産総合研究所 (    ⑦内水面試験場    ⑧相模湾試験場 ) <input checked="" type="checkbox"/> ⑨自然環境保全センター			

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業総合研究所			
部 署	農業環境部			
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可			
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 化学合成農薬を用いない土壌消毒法（熱源を利用した還元消毒効果向上技術の開発）			
<b>対応の内容等</b>	現在、住宅地など化学合成農薬による土壌消毒に制限のある場所や減農薬栽培のための土壌消毒法は、実用化されているものとして熱水土壌消毒法と土壌還元消毒法があります。土壌還元消毒法は日照や気温条件によって効果が十分上がらない場合があり、深層部分の消毒はかなり難しいと思われます。また、熱水土壌処理法は技術的に実用段階にありますが、コストの問題および傾斜地や土壌深層部の消毒が不十分であるなどの欠点もあります。そこで、施設における神奈川方式の熱水土壌消毒法と土壌還元消毒法の併用によるコストを低減化した効率的・安定的な消毒法を上記課題により検討中です。今後も継続して同様の技術開発を行うため来年度に新規課題を設け対応します。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内	③4～5年以内	④5～10年以内
<b>備考</b>				